

日本学校音楽教育実践学会

第23回全国大会プログラム

- ◆主催 日本学校音楽教育実践学会
◆後援 京都府教育委員会, 京都市教育委員会
◆開催日 2018年(平成30年)8月18日(土)・19日(日)
8月18日(土)講演会「脳科学から見た音楽教育の意義」
◆会場 京都教育大学 <http://www.kyokyo-u.ac.jp/>
〒612-8522 京都市伏見区深草藤森町1番地

■連絡先 第23回大会事務局：高橋 詩穂（京都教育大学附属桃山小学校）

〒612-0072 京都市伏見区桃山筒井伊賀東町46

TEL 075-611-0138 Fax. 075-611-0157

Email shihojassme(at)gmail.com (at)は、@に変えて下さい。

※お問い合わせはなるべくメールでお願いします。

■参加費 大会参加費：4000円／懇親会費：4000円／講演会参加費：2000円

■日程

8月18日(土)

9:30 10:00 11:30 12:30 15:00 15:15 15:45 17:45 18:00 20:00

受付	講演会	昼食	自由研究1-7	休憩 移動	総会	課題研究	休憩 移動	懇親会
----	-----	----	---------	----------	----	------	----------	-----

8月19日(日)

8:30 9:00 11:30 12:30 13:50 14:10 15:30

受付	自由研究8-14	昼食 移動	支部プロジェクト I-III	休憩 移動	フォーラム I-V
----	----------	----------	-------------------	----------	-----------

講演会

「脳科学から見た音楽教育の意義」

講師 株式会社日立製作所名誉フェロー 小泉 英明氏

本学会では、これまで「生成を原理とする21世紀音楽カリキュラム」を開発し、仮説としてのカリキュラムを実践により検討する過程を通して、音楽科で育成すべき能力を追究してきました。折しも、新学習指導要領が告示され、すべての教科等における目標及び内容が①知識及び技能、②思考力、判断力、表現力等、③学びに向かう力、人間性等の三つの柱で再構築されるなど、知識の理解の質を高め資質・能力を育む「主体的・対話的で深い学び」の実現を目指し、「何ができるようにするか」を明確にするという新たな方向性が示されました。

そこで、この機会に、脳科学の分野において世界的な視野で研究をされ、特に人間の成長における音楽・美術等の芸術の重要性を学問的に研究し、それを論文や著書として発表されている小泉英明氏を講師にお招きし、脳科学から見た音楽教育についてご講演いただくことにより、学校教育における音楽科の意義について、新たな視野から理解を深めていきたいと考えます。ふるってご参加ください。

課題研究

「音楽科で育成すべき資質・能力とその評価 —生成の原理に基づく音楽科授業—」

その3 資質・能力育成のためのスタンダードの考え方

本学会では、五カ年計画で取り組む課題研究のテーマに「音楽科で育成すべき資質・能力と授業実践—生成の原理に基づく音楽科授業—」を設定しました。生成の原理に基づく授業実践において、どのような資質・能力が育成されるのか、理論面および実践面より明らかにし、それらの能力を育成するための到達目標を設定し、そのための授業展開や評価方法の開発を目指します。第2年次では、生成の原理に基づく音楽科授業ではどのような資質・能力が育成されるのか、その理論的枠組みと具体的なモデルを示しました。また教育方法学的視点より、資質・能力を捉える基本的な態度として、学習のプロセスを動的に把握していくことの重要性が示されました。課題として見えてきたのは、結果として身についた資質・能力だけでなく、子どもの経験の連続性の中でその育ちをどう捉えていくべきか、ということです。そこで、第3年次の今年度は、子どもの音楽経験の発展において、資質・能力は具体的にどのような姿として現れるのか、『スタンダード』として示すという試みを行い、「音楽科で育成すべき資質・能力において、今回提

案するスタンダードは「いかに有効に機能するか」という点に焦点を当ててパネルディスカッションを行います。

司会 福士 幸雄(岩手県立総合教育センター)

1 これからの時代に求められる資質・能力 -音楽科の場合-

白井 学(文部科学省初等中等教育局教育課程課 教科調査官)

2 音楽科における資質・能力育成のためのスタンダードの考え方 スタンダードの枠組み

清村 百合子(京都教育大学)

パフォーマンス・スタンダードの具体的な姿

衛藤 晶子(畿央大学)

3 パネルディスカッション

「音楽科で育成すべき資質・能力においてスタンダードは「いかに有効に機能するか」

4 まとめ

支部プロジェクト

支部プロジェクトの目的は、支部理事が中心になって参加型プロジェクトを企画し、支部から全国に向けて音楽教育実践学にかかわる諸問題を発信し、その解決に向けて全国の会員で実験的に取り組み、その成果を支部に戻して実践に生かす往還関係を目指すことにあります。地域の特色が出ることも期待されます。

I 近畿支部

一郷土の教材から指導内容を考える(小学校)一

- 高橋 詩穂(京都教育大学附属桃山小学校)
- 加藤 柚乃(精華町立東光小学校)
- 岡崎 基(京都市立修学院第二小学校)

II 中部支部

一音楽鑑賞の授業において、「批評文」をどう評価したらよいか(中学校)一

- 小栗 祐子(東海学院大学)
- 横山 真理(東海学院大学短期大学部)
- 鈴木 健司(東海中学校)

III 関東支部

一ユニバーサルデザインの考え方に基づく音楽科授業づくり(小学校)一

- 金子 陽子(荒川区立第六瑞光小学校)
- 金田 美奈子(文京区立鶯籠町小学校)

フォーラム

フォーラムの目的は、「ある用語を切り口にして、日々の授業を『実践学』としてとらえ直すこと」です。

本学会では、これまでの研究成果、およびフォーラムでの内容に示唆を得ながら昨年『音楽教育実践学事典』をしました。その『音楽教育実践学事典』に掲載されている用語が会場ごとに提示されます。用語にかかわる視点をもって実践ビデオや資料を視聴します。そして、それぞれの考えを交流することで、参加者自らが新たな視点をもって授業実践をとらえ直し、

授業にある論理や筋道、関連性を見い出していくことを目指します。ぜひ『音楽教育実践学事典』をご持参いただき、関心のある会場へご参加ください。

I 5章 「教材の働きと開発」

用語 【ICT 活用による教材の開発】

チーフ：坂本 暁美(四天王寺大学)

II 6章 「授業デザイン」

用語 【教師の指導性】

チーフ：田中 龍三(大阪教育大学)

III 7章 「音楽科の拡がり」

用語 【音楽科と他教科とのかかわり】

チーフ：廣津 友香(四天王寺大学・非常勤)

IV 8章 「幼児の音楽表現」

用語 【ごっこ遊びと表現】

チーフ：小林 佐知子(畿央大学)

V 9章 「特別支援教育」

用語 【音楽療法の手法】

チーフ：関原 彩子(都立多摩桜の丘学園)

自由研究

自由研究1

司会 金子 陽子(荒川区立第六瑞光小学校)

清水 美穂(徳島県吉野川市立知恵島小学校)

- 1 小学校音楽教育における常時活動について
江上 加奈恵(愛知県あま市立篠田小学校)
- 2 音楽教育におけるゲームや電子器機を取り入れた活動の試み
一へき地における実践の記録一
○芳賀均(北海道教育大学)
伊藤秋梨(北海道教育大学3年生)
大野紗依(北海道教育大学4年生)
- 3 無記号楽譜を用いた歌唱学習
塚本 伸一(東海大学付属静岡翔洋小学校)
- 4 小学校における音楽嗜好に着目した学習の可能性
一ワッペン作成を通して一
斎藤 理加(福井県鯖江市鳥羽小学校)
- 5 音楽づくりにおける「貼り合わせ」の効用
一音楽的なまとまりを促すための圏論的アプローチ一
松下 行馬(兵庫県神戸市立水木小学校)

自由研究2

司会 金城 光彩(沖縄県宜野湾市立はごろも小学校)

小林 田鶴子(神戸女子大学)

- 1 幼児の集団的音楽表現活動における直接経験から表現への発展的様相
横山 朋子(畿央大学)
- 2 自然学舎と連続させた音楽づくりにみられる子どもの経験の発展
石光 政徳(大阪府池田市立緑丘小学校)
- 3 歌唱表現における身体の機能を基盤とした音楽的思考の過程

鉄口 真理子 (鳴門教育大学)

4 問題解決の音楽的思考におけるリフレクションの機能

—思考の連続性に着目して—

藤本 佳子 (大阪教育大学附属平野小学校)

5 音楽科の学習経験単元における問題の成立の条件

—小学校鑑賞分野の実践事例の場合—

高橋 澄代 (京都教育大学・非常勤)

自由研究3

司会 寺田 己保子 (埼玉学園大学)

福島 直美 (金沢市立高尾台中学校)

1 器楽合奏 雅楽「越天楽」の取り組み

上村 聖子 (大阪府寝屋川市中央小学校)

2 カリキュラム・マネジメントの視点からみる地域文化としての「郷土の伝統音楽」の意義

椿本 恵子 (大阪市立開平小学校)

3 感性を育成する中学校音楽科における日本伝統音楽のカリキュラム

柿谷 隆子 (京都市立東山泉小中学校)

4 高等学校音楽 I における「日本の伝統音楽」の授業実践

—沖縄の和楽器「三線」の演奏を通して—

永井 美由紀 (岐阜県立岐阜北高等学校)

5 幼少期の子供に向けた長唄指導の実際

—犬山こども長唄クラブの記録から—

山田 佳穂 (同朋大学・非常勤)

自由研究4

司会 酒井 美恵子 (国立音楽大学)

大和 賛 (大阪府阪南市立貝掛中学校)

1 小学校教員養成における教育法科目の内容構築に関する研究(3)

岡田 知也 (香川大学)

2 仮説生成模擬授業における「実験」の位置づけと意義

小島 律子 (大阪教育大学名誉教授)

3 幼児の表現遊びに関する学生の気付きについて

—実習の個人記録の省察を通して—

居原田 洋子 (美作大学短期大学部)

4 省察を促す「保育内容 表現」におけるリフレクションシート活用の意義

溝口 希久生 (東亜大学)

5 アンサンブルの演奏表現における知識の再構成

—メタ認知的言語化について—

島川 香織 (関西国際大学)

自由研究5

司会 金田 美奈子 (文京区立駕籠町小学校)

八代 健志 (兵庫教育大学)

1 音楽科教育における変遷する指揮の機能に関する一考察

—歴史的経緯と今後の可能性について—

石原 慎司 (秋田大学)

2 東西の声の音楽の知覚状況の比較研究

尾藤 弥生 (北海道教育大学)

3 テルミンの教材性

—オルフとの関連を探る—

木暮 朋佳 (美作大学短期大学部)

4 音楽教育の社会学的考察

—カルチュラル・スタディーズの視点から—

松宮 利佳 (福井市立春山小学校)

5 スペインの初等音楽科における社会的・文化的コンピテンシー育成に関する考察

—身体表現活動を中心として—

桐原 礼 (信州大学)

自由研究6

司会 田代 若菜 (江戸川区立下小岩第二小学校)

山崎 浩隆 (熊本大学)

1 鑑賞授業での曲の感じ方の違いに関する一考察

島本 政志 (大阪府寝屋川市立東小学校)

2 音楽科鑑賞授業における探究的な学びの一考察

—お話づくりの活動の事例研究—

加藤 柚乃 (京都府精華町立東光小学校)

3 生涯学習に資する音楽鑑賞授業用ワークシートの工夫

山内 芳春 (北海道教育大学大学院生)

4 音楽鑑賞授業におけるリズムと音楽活動の関わりに関する研究

—踊りのリズムに着目して—

森保 尚美 (広島女学院大学)

5 音楽科における鑑賞教育に関する基礎的考察

古山 典子 (福山市立大学)

自由研究7

司会 牧野 利子 (川口短期大学)

水野 伸子 (愛知東邦大学)

1 時空間演出に焦点を当てた領域「表現」の授業

—造形と音楽の総合的・領域横断的な協働を通して—

○長谷川 真由 (大阪音楽大学)

山口 由紀子 (京都光華学園・非常勤)

2 保育者養成課程での「表現」の授業における学生の気付きを促す「音の散歩道づくり」の教材性

横山 真理 (東海学院大学短期大学部)

3 教員養成における主体的・対話的なピアノ学習の試み

—情報機器の活用を中心に—

竹下 則子 (びわこ学院大学短期大学部)

4 保育者養成課程でのピアノ「弾き歌い」活動におけるワークシートの機能

小栗 祐子 (東海学院大学)

5 保育現場で歌い継がれる古い歌

津布楽 杏里 (貞静学園短期大学)

自由研究8

司会 坂本 暁美 (四天王寺大学)

中島 卓郎 (信州大学)

1 初等教員養成における表現力の育成(2)

—ボディーパーカッションの実践から—

安藤 江里 (松本大学)

2 音楽史の学習を通じた音楽鑑賞学習の内容理解への取り組み

宮 祐子 (東京家政大学)

3 学生・院生による教材開発実践コミュニティの展開

—小学校音楽科における主体的な学びをテーマに—

吉村 治広 (福井大学)

4 大人のためのソルフェージュ

館岡 真澄(武蔵野音楽大学)

- 5 地域と大学の連携教育の取組とその意義
—中等の教職に関する科目・中等音楽科指導法Ⅱに関連して—
金 奎道(高知大学)

自由研究9

司会 河合 博子(札幌市立西岡中学校)
土師 尚美(大阪府池田市立秦野小学校)

- 身体動作を媒介としたイメージの共有過程にみる幼児の協同性
—わらべうたを教材とした表現活動の事例分析より—
小林 佐知子(畿央大学)
- 直接経験を基盤とした音楽づくりに関する認識とイメージの関連性
—小学校低学年の合科的取り扱いの実践から—
松宮 陽子(兵庫県西宮市立生瀬小学校)
- わらべうたを教材とした音楽科授業におけるイメージ形成にみる意味生成
岡寺 瞳(大阪成蹊大学)
- 小学生の音楽鑑賞授業における楽曲のイメージ構築過程にみられる児童の生活
楠井 晴子(大阪府東大阪市孔舎衛小学校)
- イメージや感情に関連させる音楽科授業
桐山 由香(大阪教育大学附属池田小学校)

自由研究10

司会 長野 純子(大阪府吹田市立千里第三小学校)
山本 幸正(国立音楽大学)

- 「深い学び」を生み出す音楽の授業づくり
—音楽表現の技能を獲得していく子どもの姿に注目して—
高橋 詩穂(京都教育大学附属桃山小学校)
- 音楽科授業における児童の主体的な学びを展開する授業構成の視点
—感性の働きに着目して—
渡邊 真一郎(京都府亀岡市立禰田野小学校)
- 音楽科授業において「協働学習」を実現する環境構成
北尾 祐子(大阪市立加美中学校)
- 保育者養成におけるコード伴奏を内容とするピアノ実技の授業構成
—指導内容の四側面を関連づける立場より—
浅見 愛(滋賀文教短期大学)
- 音楽科の教科内容についての認識を促す学習方法
清村 百合子(京都教育大学)

自由研究11

司会 笠井 かほる(埼玉学園大学)
山下 敦史(札幌市教育委員会)

- 幼児は音楽の要素をどのように感じ取るのか
日笠 みどり(大阪成蹊大学・非常勤)
- 活動実践による幼稚園児と保育園児の音楽的表現における手足の動きに関する特徴
佐野 美奈(大阪樟蔭女子大学)
- 保育者をめざす学生と「わらべうた」Ⅰ
○岸 久美子(東京経営短期大学)
西山 国江(横浜こども専門学校・非常勤)
- 音楽専科非常勤講師が担当する音楽授業と子どもたちの安心感について
—小学校音楽科における実践—
牛頭 真也(洗足学園音楽大学・非常勤)

- 5 若手音楽教師のためのメンタリングにおけるメンターの機能について

谷本 直美(桐蔭横浜大学)

自由研究12

司会 古澤 誠朗(大分県立別府支援学校)
洞 孔美子(大阪府立枚方支援学校)

- 小学校特別支援学級における箏を使ったふしづくり
—技能面に焦点を当てて—
井上 薫(大阪府藤井寺市立道明寺南小学校)
- わらべうたを教材とした音楽授業における教師の働きかけ
—インクルーシブ教育を視点として—
衛藤 晶子(畿央大学)
- 授業のユニバーサルデザインの視点を取り入れた音楽科授業
—鑑賞授業における学習支援—
廣津 友香(四天王寺大学・非常勤)
- 教員養成課程学生の「参加型」出前授業のあり方
—ユニバーサルデザインの観点に基づく、知的障がいのある生徒へのICTを活用したドラムの授業実践を通して—
園田 葉子(大阪音楽大学)
- 学習指導要領改訂に伴う音楽科教育における「児童生徒」観の再考
—マイノリティな立場の子供への学力保障の捉え方—
尾崎 祐司(上越教育大学)

自由研究13

司会 多賀 秀紀(富山大学)
福士 幸雄(岩手県立総合教育センター)

- 音楽教育におけるアクティブ・ラーニングの可能性
清水 麻衣子(元岐阜大学大学院生)
- 生徒の日常体験を題材とした中学校音楽科の授業開発
竹澤 賢吾(福井大学大学院生)
- ICTを活用した創作
—多様な技能による表現—
宮下 暁子(大阪府立成城高等学校)
- 中学生がとらえた「音楽の授業が果たす役割と身に付けた力」
—アンケート調査に基づく分析から—
清水 宏美(玉川大学)
- 言葉の特性の知覚・感受を基盤とする外国語歌唱表現の授業構想
宮澤 多英子(吉祥女子中学・高等学校)

自由研究14

司会 齊藤 淳子(川口短期大学)
松園 聡美(中村学園大学短期大学部)

- 再表現における創造性とは何か
桑原 章寧(貞静学園短期大学)
- 幼児教育課程における音楽の指導法に関する研究
二宮 貴之(聖隷クリストファー大学)
- 保育カリキュラム改訂による音楽科目の再考
若谷 啓子(帝京大学)
- 合奏劇を用いた授業実践
—子どもの初めての出会いに着目した音楽活動—
○望月 たけ美(小田原短期大学)
山本 華子(小田原短期大学)